

ヌエツ・ジン・エイ研究員(ミャンマー)

私は、ミャンマー社会福祉・救援・再定住省、救援・再定住局研修・研究課長のヌエツ・ジン・エイと申します。

ミャンマーは東南アジアに位置し、インド洋に面した南北に長い国土を有する国です。ベンガル湾に沿って長い海岸線があり、毎年洪水やサイクロンの被害に見舞われています。また都市火災、地震、地滑りなどの災害も発生します。

2004年のインド洋地震・津波災害では、ミャンマーは他の国々よりも比較的被害が少なかったといえますが、その後、自然災害のすさまじい影響を認識し、ミャンマー政府は効果的な防災・復興対策を講じるため、首相を議長とする国家防災中央委員会を組織しました。国家防災中央委員会は、運営委員会と10の小委員会から構成されており、私が所属する部局は救援・再定住小委員会を担当しています。

社会福祉・救援・再定住省の指揮の下、救援・再定住局は地域・国際協力に積極的に取り組んでいます。ミャンマーはASEAN防災委員会(ACDM)の2002年設立時からのメンバーで、救援・再定住局はACDMの中核的役割を果たしています。ミャンマーは人的資源開発に努めており、さまざまな能力開発プログラムに政府職員を派遣しています。私はこの度、ADRCの2007年7~12月期の客員研究員に、ミャンマーから初めて選ばれたことをうれしく思います。

日本は多様な自然災害を経験しているにもかかわらず、非常に発展し、すぐれた防災システムを構築しています。私は日本で洪水・暴風対策および防災教育システムについて学ぶ予定です。ミャンマーはADRCの客員研究員プログラムにより、恩恵を被るものと考えています。

